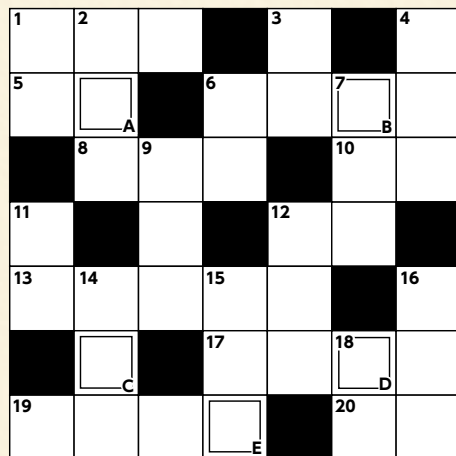


Merのキーワード! Crossword Puzzle

正解者から抽選で5人にクオカード(2000円分)を差し上げます。

□のマス目に「答え」が隠れています。パズルに言葉をあてはめ、□□□□□の5文字を並べ替えてください(今号は「水人之交」にヒントがあります)。タテ・ヨコのカギには特集記事にまつわる言葉もあります。ぜひ、チャレンジしてみてください!

二重マスを並べ替えてできる言葉



タテのカギ

- 1 セルフ○○。アフター○○。
○○マナージャー。
- 2 古墳時代の素焼き土器。死者を守るために墓の周りに設置された。
千キログラム○○。
- 3 ○○○アイランド現象の緩和策として期待されている帯水層蓄熱(4ページ)。
- 4

- 18 16 15 14 12 11 9 7 6
飲み込んではいけないものを間違って飲み込むこと。
水に沈めて船を係留させる道具。
歩き。○○で移動する。
ニュージーランドの国鳥にちなんだ名を持つ、ヒタミンCが豊富な果物。
ことわざ「目から○○○○が落ちる」。
「湯花」の読み方は?
イスタンブールがある国。
↑上司。
- 12
- 11
- 9
- 7
- 6

ヨコのカギ

- 1 「気配」の読み方は?
- 5 ⇄弟。
- 6 「芒果」と書く南国の果物。
- 8 ブドウの果汁を発酵させたアルコール飲料。
- 10 裁縫に使う、針と○○。
- 12 ゴールド。
- 13 奈良県・斑鳩の里に建立された○○○○○寺(2ページ)。
- 17 聖書。
- 19 相撲の最高位。
- 20 ○○・現在・未来。

パズルの応募方法

EメールまたはFAXで、①パズルの解答「□□□□□」②住所・名前・電話番号③本誌を受け取った場所④今号で印象に残った記事⑤Merへのご感想を記入し、右記宛先へ。送信は1人1回のみ(複数応募は無効)とさせていただきます。

宛先

メール: koueki@uitech.jp

FAX: 06-4963-2087

締め切り/12月28日(日)。

※前号の答え= ア ク タ ガ ワ でした。多数のご応募、ありがとうございました。

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。本誌は、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しています。この冊子を通じて、これからも水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

バックナンバーはホームページに掲載しています。

人と地球のうろおい
マガジン・メール
2025年10月号

発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5-206号 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <https://uitech.jp/>

人と地球のうろおいマガジン

FREE
magazine

[メール]
Mer

vol.39
2025
October

清流紀行 P02

「斑鳩の歴史を静かに紡ぐ竜田川」(奈良県生駒郡斑鳩町)

ガイアの瞳 P04

「地下に眠る“天然の魔法瓶”
帯水層蓄熱システム「ATES」の普及をめざして」

水人之交 P08

「魚のゆりかご水田プロジェクト」(滋賀県)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

クロスワードパズル P16

赤い欄干の橋が紅葉に映える竜田川

清流紀行

（奈良県生駒郡斑鳩町）
斑鳩の歴史を静かに紡ぐ
竜田川



■交通アクセス ▲紅葉スポット
電車：JR・近鉄王寺駅から奈良交通バス「竜田大橋」下車、徒歩約5分
竜田公園駐車場：22台※紅葉まつり時は利用不可



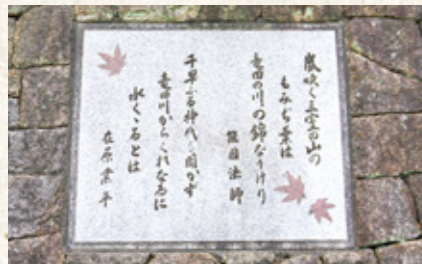
歴史と文化が薫るまちで、

紅葉の錦を求めて

岩瀬橋から望む、秋の竜田川

歴史に思いをはせながら
遊歩道を散策

奈良県生駒郡、法隆寺で有名な斑鳩の里を流れる竜田川。生駒山の東麓を水源に、平群町を経由して斑鳩町を南北に走り、やがて大和川へと注ぎます。ここは古くからの紅葉の名所。小倉百人一首には在原業平の「千早ふる 神代も聞かず竜田川 からくれなゐに 水くくるとは」と、能因法師の「嵐吹く 三室の山のもみち葉は 竜田の川の 錦なりけり」の二首が収められています。川のほど近く、能因法師が詠んだ三室山の入り口でその歌碑を見られるとのこと。JR・近鉄が乗り入れる「王寺駅」から向かいます。



在原業平と能因法師の歌碑は三室山への登り口で見ることができます

バスに揺られ、国道25号沿いの停留所「竜田大橋」で下車。竜田川には重厚感のある竜田大橋をはじめ、北側に念仏橋や河藪橋、南側にはその名も“紅葉橋”がかかっています。一帯は県立竜田公園として整備されており、遊歩道が約2km続きます。



鮮やかな朱塗りの「紅葉橋」をはじめ、趣のある橋をめぐるのも一興

毎年11月下旬ごろは川の両岸をイロハモミジが彩り、紅葉狩りの人々にぎわうスポット。最盛期には「紅葉まつり」（※）が開催され、約30店並ぶフリーマーケットも斑鳩の秋の風物詩だとか。さて、紅葉橋から堂山橋へと向かって、南下していきましょう。

※2025年は11月30日（日）10時～15時／問い合わせ：法隆寺iセンター TEL0745-74-6800



竜田川と法隆寺の間に建つ龍田神社。境内には「能楽金剛流発祥の地碑」があります



観光ボランティアの永井さん。遊歩道にモミジを植栽する「紅葉を守る会」の一員としての経歴も

「昔はもっと西側に蛇行して流れていたんです」。そう教えてくれたのは、法隆寺iセンター（斑鳩の里 観光案内所）で観光ボランティアとして活動する永井潜さん。関ヶ原合戦の翌年の1601（慶長6）年、竜田藩の藩主となった片桐且元は本拠地となる竜田城を竜田大橋の南東に築き、西に蛇行していた竜田川を直線化して城の外堀へと改修しました。

県立竜田公園を抜けて西側にある三室山（標高82m）に登ると、旧河道がマンションや梨畑になっているさまを一望することができます。山の中腹には聖徳太子が遷移したという説をもつ神岳神社がひっそりとたたずんでいました。「竜田藩の時代、南生駒村でため池の決壊や大きな水害が起こったという記録が残っています。この頃に竜田川全域で河川改修が行われたのでしょうか」（永井さん）。悠久の昔の治水事業に思いをはせながら、歩みを進めて行きましょう。

名物グルメを生んだ景観美、
秋の風を存分に感じて

竜田川について、さらに興味深いエ



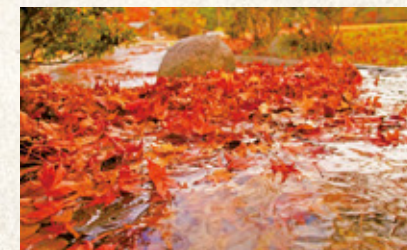
川面にせり出すように色づくイロハモミジは11月下旬から見頃



食べやすいひと口サイズに仕上げた「竜田揚げ丼」（900円）はサクサクした食感（法隆寺iセンター内食堂）



深緑や青空とのコントラストも美しい竜田川（夏の景観）



澄んだ川面を赤く染める紅葉

立ち寄り“水”SPOT

“ぽっくり寺”として親しまれる
吉田寺



りんとした空気を放つ「阿弥陀如来坐像」

法隆寺と竜田川の間に位置し、「ぽっくり往生の寺」「腰巻祈祷の寺」として親しまれる古刹。創建は約1300年前、天智天皇の勅建と伝えられ、987（永延元）年、『往生要集』で有名な恵心僧都が開基した念仏道場。境内にある霊泉の井戸はその昔、諸病に効く「ご香水」として汲みにくる人々がいたと伝えられています。重要文化財の多宝塔や奈良県下最大の阿弥陀如来坐像は見ごたえたっぷり。生駒郡斑鳩町小吉田1丁目1-23 拝観時間/9時～16時 拝観料/ 300円



竜田川と大和川、二つの一級河川の合流地点は壮観な景色

ガイアの瞳

地下に眠る“天然の魔法瓶”

帯水層蓄熱システム「ATES」の普及をめざして

帯水層蓄熱とは、地下水を多く含む地層(帯水層)から熱エネルギーを採り出して、建物の冷房・暖房を効率的に行う技術のこと。最新事例では大阪のうめきた地区や大阪・関西万博でも運用され、省エネルギーやCO₂排出量削減、ヒートアイランド現象の緩和策として期待されています。熱需要の高い建物が集中し、地下は豊かな帯水層に恵まれている大阪市。これらの地域特性に即した未利用エネルギーである地中熱を活用した帯水層蓄熱と、その普及に向けた取り組みを紹介します。

帯水層蓄熱システムの井戸(アミティ舞洲)

帯水層蓄熱システム「ATES」^(※)とは >>>>>

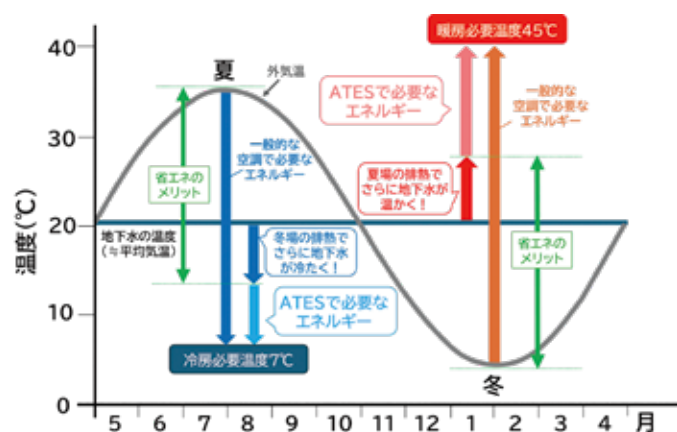
■帯水層蓄熱利用のメリット

帯水層とは、礫(れき)や砂で構成される地下水の多い地層のこと。地中深くにあるため周囲の地層の断熱性が高く、魔法瓶のような役割を果たす特徴があります。この利点を生かし、帯水層に環水する(地下水を地中に戻す)ことで冷排熱や温排熱を蓄えたり、揚水する(地下水をくみ上げる)ことで、蓄えた冷熱や温熱を採り出すことができます。

memo

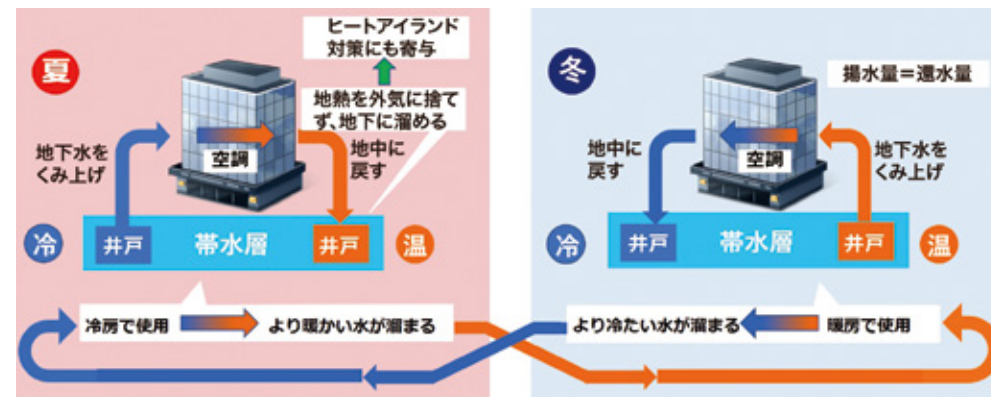
地下空間を使った、“季節間をまたぐ”
一種のエネルギー貯蔵のシステム！

※英訳“Aquifer Thermal Energy Storage”の頭文字から「ATES(エーテス)」と呼ばれる



【地下水の特徴】地中の温度は年間を通してほぼ一定。ATESではこれに加えて地下水に熱を蓄えることができるため、さらに省エネルギーのメリットが大きい

■帯水層蓄熱システムの仕組み



2本の井戸を使い、夏の冷房で出た温排熱を蓄熱して冬の暖房で使い、冬の暖房で出た冷排熱を蓄熱し、夏の冷房で循環利用する「熱のリサイクルシステム」
画像提供/大阪市環境局

帯水層蓄熱システムの特徴

1 省エネルギー&CO₂削減

排熱を蓄熱利用できるため、従来の空調エアコン(空気熱利用ヒートポンプ、ガス吸収式冷温水機など)と比較して、冷暖房にかかるエネルギー消費量を削減することができます。その結果、CO₂排出量の削減にも貢献します。

point

従来のシステムより約47%(※)の省エネ！
※ガス吸収式冷温水機などと比較した場合
(アミティ舞洲実績/通常年間運用時の省エネ効果を推算)

2 ヒートアイランド現象を緩和

冷房時の排熱を地下に蓄えることで、都市部のヒートアイランド現象を緩和します。

point

空調からの排熱は従来の空調エアコンのように大気中に放出されない！

3 持続可能な地下水の保全&利用

地下水の熱エネルギーのみを利用しつつ、同一の帯水層に全量を環水することで、地盤沈下を防止しつつ、持続可能な地下水の保全と利用が可能です。

point

2本1組の井戸を使い、くみ上げた地下水は熱エネルギーのみを採り出した後、その全量を同一帯水層に戻します！

大阪市×在大阪オランダ王国総領事館および大阪公立大学との連携

海外で導入が進んでいるATES。オランダ王国では1990年代から帯水層蓄熱システムの普及促進が進められ、導入実績はすでに3000件を超えています。また、大阪公立大学は地盤情報に基づく揚水量や蓄熱効率などの高度な専門的知見を有し、これまで市内で実施された実証事業においてもその知見が大いに生かされてきました。

大阪市は、在大阪オランダ王国総領事館および大阪公立大学と協力を構築し、連携協定を締結(2023年11月)。3者の強固な協力体制により、帯水層蓄熱システムの社会実装に向けた取り組みを推進しています。

memo

大阪・関西万博のオランダパビリオンでは、母国から専門家を招致してATESのPRを実施(2025年9月)



画像提供/大阪市環境局

ATESの普及に向けた取り組み >>>>

■実証事業を経て、人工島・舞洲で運用を開始!

大阪市は大阪公立大学と連携を図りながら、「うめきた2期暫定利用区域」(北区／2015～2018年度)および「大阪市障がい者スポーツセンター アミティ舞洲」(此花区／2018～2020年度)での実証事業に取り組んできました。井戸1対を設置し、床面積1万㎡のビル空調を賄う大容量にあたる100㎡/hの地下水を揚水／環水。その結果、従来システム比35%～47%の省エネ効果を確認できました。また、運用期間中の新たな地盤沈下は観測されませんでした。2021年から「アミティ舞洲 帯水層蓄熱冷暖房システム」の運用がスタートしています。



2本1組で構成される井戸の1本「熱源井B」(対になる「熱源井A」は約120m先に設置)。季節が変わると水の流れの向きを逆転させ、それぞれ「揚水」「環水」の役割を交代で担う



冷房時、ヒートポンプの排熱で温まった熱源水を地下水で冷やすための熱交換器



ヒートポンプで冷水を作る時(夏)は熱源水に熱を放出(排熱)し、温水を作る時(冬)は熱源水から熱を吸収



スポーツ施設と研修宿泊施設を完備するアミティ舞洲

memo

2023年度から帯水層蓄熱システムをベースに、余剰再生可能エネルギーの有効活用に関する実証事業が進められています

「地盤沈下や水質変化の影響が起きないように、常に監視しています」(大阪公立大学 都市科学・防災研究センター 中曽康壽博士)



システム全体を統括する制御盤

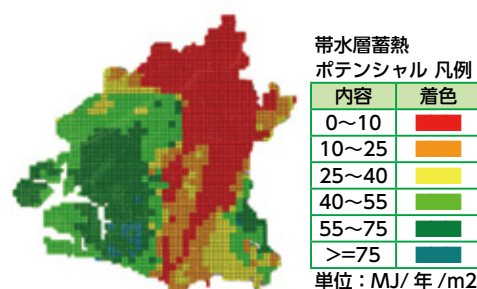
大阪市域は地下に高いエネルギーを持っている

帯水層を活用した冷暖房ができるエリアの条件は、

- 1 地下水をくみ上げて戻すことができる地盤である
- 2 井戸間の距離を確保できる(相反する「熱」と「冷」が干渉しない)
- 3 地下水の流速が速すぎず、熱を蓄えることができる

などが挙げられます。

地上に熱需要の高い事業所が集中し、一方で地下の浅層には豊富な地下水が存在している大阪市。その市域を250メートルのメッシュで区切り、利用する帯水層ごとに含まれる地下水の持つ熱エネルギーを分布図にしたものが「大阪市域の帯水層蓄熱ポテンシャルマップ」です。各メッシュにおける利用可能な熱エネルギーの目安を色で示しています。高いポテンシャル(緑色)は上町台地以西と南東部に分布しており、梅田・中之島地区など熱需要が高い市内中心部が含まれていることがわかります。「特に高いポテンシャルが期待される西側エリアは、粘土層と帯水層が交互に出現するきれいな互層構造になっています」(大阪市環境局・田中さん)。



大阪市域の帯水層蓄熱ポテンシャルマップ

足元に広がる豊かな資源に、まずは目を向けてもらうことから

大阪市環境局 環境施策部 環境施策課
エネルギー政策担当課長代理 田中 邦治さん



「夏の暑さを冬に、冬の寒さを夏に持っていったら」そんなふうに考えたことはありませんか?まさに天然の魔法瓶さながらに、季節をまたいでエネルギーが利用できる。これこそがATESの強みです。新たな商業施設の誕生で注目が集まる「うめきた2期地区」や万博会場にも導入されましたが、構造が目に見えず実感にくい面もあります。しかし7月にアミティ舞洲で開催した見学会には2日間で約100人が来場し、少しずつATESへの関心が高まっていると感じています。

大阪市は法律の厳しい規制により冷暖房用に地下水をくみ上げてはいけないという大前提がありました。その昔、昭和初期から昭和30年代にかけて大量の地下水をくみ上げたことにより、大規模な地盤沈下が発生したからです。この規制を緩和してもらうべく、大阪公立大学などと連携し、地下水を「採って戻せる」新たな技術を開発。地盤沈下が起こらないことが証明され、2019年大阪・うめきたにおいて導入が認められ、規制地域では全国初の社会実装へと大きくかじ

を切ることができました。

導入前の実証試験に関しては約1年間の期間を要するなど、いまだハードルが高い実情があるため、国に対してさらなる規制緩和を求めています。オフィスビル以外の幅広い用途への活用や、大阪市域だけでなく全国の規制区域でも活用されることを願っています。

私たちの足元にある貴重な資源、地中熱の有効活用に向けて、これからもATESの普及拡大を進めてまいります。

大阪市及び大阪公立大学による講演と施設見学が行われたアミティ舞洲見学会



【問い合わせ】

大阪市環境局 環境施策部 環境施策課 エネルギー政策担当
TEL: 06-6630-3483
メール: ja0088@city.osaka.lg.jp

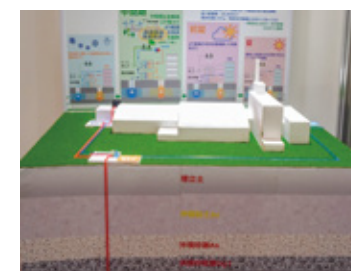
大阪・関西万博「大阪ウィーク秋」“地球の魅力発見ツアー”に出展!

(EXPOメッセ/2025年9月13日～15日)

大阪43市町村それぞれの魅力を、季節ごとに発信する企画「大阪ウィーク」。特色ある伝統産品や文化財、アート作品などを展開する“みなはれゾーン”にATESが登場しました。「すごいぞ、ATES!」のタイトルのもと、万博会場内にも一部導入されたエコな空調設備＝帯水層蓄熱システムと、さらなる再生可能エネルギーの活用について模型や動画を使ってわかりやすく紹介。たくさんの来場者が足を止めて見入っていました。



西ゲートそば、大屋根リング沿いのEXPOメッセ「WASSE」で開催されました



ATESのしくみを模型で再現



大阪公立大学によるPR動画も好評でした

水人交

すいじんの
まじわり

豊かな農地を
次世代へ



琵琶湖に続く水路での生きもの観察会
(せせらぎの郷 須原)

琵琶湖とつながる

「魚のゆりかご水田プロジェクト」(滋賀県)

田んぼで魚つかみをする子どもたちと、温かいまなざしで見守る大人たち……そんな原風景の復活を目指して滋賀県が進めている、「魚のゆりかご水田プロジェクト」。生物多様性を育み、生きものの暮らしに配慮した田んぼの環境を再生するための取り組みと、豊かな農地を次世代へと引き継ごうと励む人々の思いにせまります。

魚の赤ちゃんを育む“魚のゆりかご水田”

琵琶湖に生息しているフナやナマズ、コイは浅瀬で卵を産む習性があります。その昔、琵琶湖岸の田んぼは絶好の産卵場所でした。しかし1965年頃から農地の整備が進み、生産性向上などのために水路を深くしたこと、湖魚が田んぼに遡上(そじょう)しにくくなりました。それから30年以上がたったころ、滋賀県や研究機関が「もう一度、魚が泳ぐ田んぼを復活させよう」と立ち上がり、排水路や田んぼへの入り口に「魚道」を設置する方法を開発。そして2006年、農業生産性を維持しながら、

湖魚が産卵・生育できる水辺の環境を取り戻す「魚のゆりかご水田プロジェクト」が誕生しました。



Topics

世界農業遺産に認定!「琵琶湖システム」

資源にやさしい伝統的な「待ちの漁法」「エリ漁」や漁業と農業が融合した食文化「鮒ずし」など、琵琶湖と共生する農林水産業「琵琶湖システム」は1000年以上大切に受け継がれてきました。この循環型システムは、2019年2月に「日本農業遺産」の認定を受け、2022年7月には国連食糧農業機関(FAO)の「世界農業遺産」に認定されました。その中核として、「魚のゆりかご水田」は豊かな生き物を育み、生物多様性の保全にも寄与するとして注目されています。



琵琶湖システム公式ロゴマーク

魚のゆりかご水田の暦

4月

初旬:魚道設置／ 堰板をはめる

・排水路に魚道を設置⇒田んぼからの濁水が、直接琵琶湖へ流入することを抑える効果も

Memo

水位を階段状に上げていく「堰上式」(取り外し式)と、「一筆型」(固定)があります



約200mの水路に等間隔で樹脂製のパネルをはめます(せせらぎの郷 須原)



排水路ごとに水位を階段状に上げていきます

5月

上旬:代かき・田植え

・雨が降ると、魚道を通して魚が琵琶湖から田んぼを目指して遡上

下旬:魚の産卵時期／魚にもやさしい水管理

・通常よりも水位変動を少なくしたきめ細やかな水管理
・田んぼに入った魚は、すぐに産卵する

*田んぼは水温が高く、流れも穏やかなため産卵に最適



地域内外の住民が参加する「田植え体験」を実施



排水路を遡上するナマズ

6月

上旬～中旬:魚のふ化・成育／田んぼの溝切り

・田んぼのプランクトンを食べ、ブラックバスなど敵となる外来種もいない環境ですくすく成長

*田んぼを乾かすために溝を切ること、稚魚が排水路へ流下しやすくなります

下旬:魚道の堰板を外す／稚魚が琵琶湖へ

・排水路の堰板を撤去(堰上式)

*稚魚は約1カ月で2cmほどに成長。堰板を外した排水路から、琵琶湖へ帰っていきます



約2cmに成長したフナの稚魚



魚道の堰板を外し、来年まで保管します(せせらぎの郷 須原)

9月

上旬:稲刈り

稲刈り体験で、再び地域内外の住民が田んぼに訪れます



Topics

ニゴロブナと田んぼの関係

400万年の歴史を持つ世界有数の古代湖で、多くの固有種が生息する琵琶湖。伝統食「鮒ずし」の原料としても知られるニゴロブナは、人が湖辺に住み始めるはるか昔から、ヨシ帯などの湿地帯を産卵の場所としていました。やがて人々が湖辺で米づくりをするようになってからもニゴロブナの営みは変わらず、産卵に最適な場所として田んぼを利用するようになりました。現代でも、春になり田んぼに水を張る頃になると、ニゴロブナは産卵のために田んぼを目指します。

ニゴロブナの数が増え鮒ずしの生産が滞った時期がありましたが、少しずつまたその姿が見られるようになりました。





魚のゆりかご水田は「五方よし!」

近江商人の言葉「三方よし」にちなんだ造語「五方よし」は、魚のゆりかご水田の特性を表したものだ。地域・琵琶湖・農業・子ども・生きものの関係性が、県内で魚のゆりかご水田に取り組む17団体(2025年8月現在)において紡がれています。



- 地域によし** … 魚道づくりや生きもの観察会などを通じて多くの人が田んぼを訪れる⇒交流が生まれ、豊かな地域が育まれる
- 琵琶湖によし** … 排水路に魚道を設置することで、田んぼからの水を一時的にためることができる⇒琵琶湖への濁水の流入を抑える
- 農業によし** … 滋賀県による「環境こだわり農産物」の認証を受け、地域環境にやさしいブランド米として販売⇒安心・安全&持続可能な農業へ
- 子どもによし** … 水田に親しめる多彩なイベントを開催⇒子どもたちが田んぼや米づくりに興味を持つように
- 生きものによし** … 水温が高く、エサとなるプランクトンが豊富かつ外来魚がいない⇒稚魚の生存率は約30%と高く、成育に適した環境



琵琶湖博物館の学芸員による「生きもの講座」(せせらぎの郷 須原/2024年)



魚のゆりかご水田米のロゴマーク入りの米



水路で稚魚の姿を確認(せせらぎの郷 須原)

interview

琵琶湖を身近に感じながら、豊かな農地を守り育みたい

せせらぎの郷 須原(滋賀県野洲市): 藤岡 いづみさん & 八尋 由佳さん

琵琶湖の東部に位置する須原で2009年から「魚のゆりかご水田プロジェクト」に参画している「せせらぎの郷 須原」。2代目としてコミュニティを支える藤岡さんと、他県から移住し、活動を共にする八尋さんにお話を伺いました。

藤岡: 滋賀県からゆりかご水田プロジェクトへのお声がけがあったのは18年前。ゆりかご水田は琵琶湖から2km程度が地理的に限度であり、須原は1.7kmとその圏内だったのです。昔ながらの原風景に思いをはせた私の父世代の方々が「やってみよう」と共鳴し、80軒ほどの集落の下部組織として「せせらぎの郷 須原」が誕生しました。

八尋: 私は九州出身で、ちょうどセカンドライフを考えた時に「農業をやってみよう」と思い、藤岡さんのお父さまとのご縁をきっかけに滋賀県へ移住。今は自分の農地(4反)での農作業や協議会としての活動を無理のないペースで続けています。

藤岡: 田植えの後の「生きもの観察会」は毎年大盛況。リピーターさんも含めて今年は150人の参加があり、約1mのコイを発見して大いに盛り上がりました。

八尋: 魚道をぴょんぴょんと跳ねるコイやナマズの姿を初めて見たときは感動しました。たまに、堰板に当たってうまく越せないドジな魚もいるのだけど……。雨の後に、そんな魚たちが上ってきていないか確認に行くのが、この時期の楽しみです。



やひろ



SNSを中心に「広報活動」にも力を入れています」と藤岡さん

藤岡: イベントでは私たちが育てたお米を炊いて、実際に味わっていただきます。田植えの時はおにぎり、観察会はカレーライス、稲刈りでは新米のご飯にエビ豆のつくだ煮など琵琶湖産の一品を添えて。何杯もおかわりしてくれる子どもたちの笑顔を見ると、これまでの苦労が吹き飛びますね。この取り組みはよく「五方よし」と表現されますが、五つの中で最も実感しているのは「生きものによし」です。田んぼの仕組みに合わせて魚が育つ、いわば昔に近い形。堰板を外し、稚魚たちが琵琶湖に帰る=田んぼからの巣立ちと捉えています。

八尋: 魚への影響を考え除草剤は使わず、あぜ草は手押しの機械刈り、水位調整もあり、魚は帰ってきているかしら?など日々の気苦労は多いですが、手間ひまかけて育てた米はもっちりとしてやさしい甘みを感じられて。関わる人の顔が見えるこの取り組みに共感して、おいしく味わってもらえたら何よりですね。

藤岡: 琵琶湖にほど近いこのエリアは、湖の恵みを受けられるので本当にありがたいです。生まれ育ったこの地で、琵琶湖を身近に感じられる農業を続けていきたい。魚たちと共生することで、琵琶湖に恩返しができたらうれしいです。

八尋: 私は、過去の自分のように他地域から来る人たちのロールモデルになれたらと思っています。古民家再生など、こちらの受け入れ体制も整えていきたいです。滋賀県立大学との協働では、ドローンを飛ばしてPR動画の撮影をしたりもしています。この環境を未来に引き継ぐために、若い感性やパワーにも大いに期待しています!



新調した軽トラックで須原へ通う八尋さん



県外からのネームプレートも並ぶ、オーナー制度の田んぼ



子ども以上に大人が楽しむ姿も見られる「生きもの観察会」



お盆に降り続いた雨で一気に育った稲穂に「自然のパワーを感じました」(藤岡さん)

Topics

「魚のゆりかご水田米」&清酒「月夜のゆりかご」

琵琶湖から水田に遡上した湖魚とともに育まれた「魚のゆりかご水田米」。農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下に減らすなどの条件をクリアした「環境こだわり農産物」の認証を滋賀県から受けているブランド米です。実際に稚魚が田んぼで繁殖しているかを確認するという厳格な審査も受けています。手間ひまをかけ、大切に育てられたお米は安心・安全の証しです。

琵琶湖の東部・須原産の「魚のゆりかご水田米」100%でつくられた清酒「月夜のゆりかご」は、やさしい口あたりの純米吟醸酒。食用米(コシヒカリ)ならではのすっきりとした味わいは、どのジャンルの食事にも合わせやすいと好評です。



「須原 魚のゆりかご水田米」は下記ホームページで購入可能



季節により「生原酒」と「火入れ」を楽しめる純米吟醸酒

問合せ先

●「魚のゆりかご水田プロジェクト」
滋賀県 農政水産部 農村振興課
TEL 077-528-3963

●せせらぎの郷 須原
滋賀県野洲市須原219
ayao@hori55.com
https://seseraginosato.net/



ホームページ

▶YouTube
@suharayurika5
「須原ゆりかご水田」チャンネル



こちらから

親子で楽しむ!

夏休み特別講座 下水道サイエンスラボ

吹田市下水道部では、市民への下水道事業の理解のためさまざまな広報活動の取組を行っています。今回は、この夏に実施した「夏休み特別講座 下水道サイエンスラボ」についてご紹介します。

吹田市下水道部の主な広報活動



▲ 水再生センター春の施設見学会



▲ ゆいぴあ夏まつり



▲ 小学校出前授業

夏休み特別講座 下水道サイエンスラボ

7月30日(水)と8月6日(水)の2日間、南吹田水再生センターで小学生(主に4~6年生)とその保護者を対象とした夏休みイベント「下水道サイエンスラボ」を開催しました。今年は、昨年度の2回の開催では想定を上回る申し込みがあり抽選となったことを受け、4回に増枠し、計20組55名の親子にご参加いただきました。



参加者に下水道部オリジナルのトイレトペーパーと缶マグネットをプレゼント

1 時間目

「下水道について知ろう!」

下水道の役割や下水処理の仕組みについて、職員からの一方的な説明とならないよう参加者には、「下水がどうやって処理場までくるの?」「汚れた水はどうやってきれいになるの?」など一緒に考えながら学びました。



2 時間目

「いろいろな紙の溶解実験」

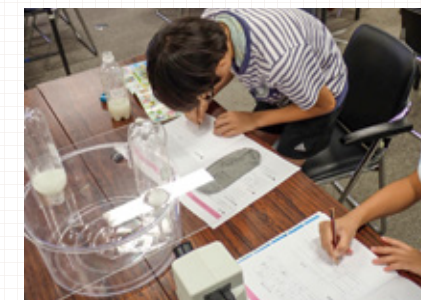
トイレに流すのはトイレトペーパー、ではティッシュペーパーやウェットティッシュなどの身近な紙を流すとどうなるの? ペットボトルをトイレに見立て、いろいろな紙を流すとどうなるのか予想して、トイレのつまりを再現する実験を行いました。



ペットボトルに紙を詰めます



思いっきり振って溶かします



ペットボトルの水を排水し、結果をまとめます

3 時間目

「微生物を観察しよう!」

水再生センターで働く微生物を顕微鏡で観察し、見つけた微生物で自分だけのオリジナル微生物図鑑を作成しました。デジタル顕微鏡を使うことで親子一緒に微生物を探したり、職員の説明を聞いたりすることができました。

Before...

ピント合わせが難しい
何を見ているかわからない



微生物みつけた!!



見つけた微生物で図鑑づくり

今後の広報活動

下水道サイエンスラボや水再生センター施設見学会への参加者から、「下水道の重要性を再認識した」「水への意識が変わった」といった感想が寄せられています。これらのイベントは参加人数に限りがありますが、今後も地道な啓発活動を通して、市民の下水道事業への理解を深めていき、円滑な事業推進や人材確保など、下水道事業が抱える課題解決の一環として広報活動に取り組んでいきます。



新デザインマンホール蓋

センターだより

ナイトクルージングで魅力再発見 船で巡る大阪の川と橋

水の都・大阪では多くの川とそこにかかる橋が人々の暮らしを支えてきました。普段まちから見て
いる河川や橋梁の役割について理解を深め、水都大阪の魅力を再発見していただくために、道頓堀
川と東横堀川、寝屋川、大川を船で巡ってきました。

今回は初めての試みとして、ライトアップされた橋や水辺空間を見ていただこうとナイトクルー
ジングで実施しました。

当日は天気も良く、応募者多数のため、厳正な抽選の結果選ばれた参加者の皆様に、中秋の名月
も眺めながら、楽しいクルージングのひとときを過ごしていただきました。

開催日時 2025年10月6日 18時から

参加人数 31名

主催 一般財団法人都市技術センター

航行ルート 湊町船着場⇒道頓堀川⇒東横堀川⇒大川⇒寝屋川⇒大川⇒八軒家浜船着場



湊町船着場で乗船！



道頓堀のにぎわいを通り抜けて



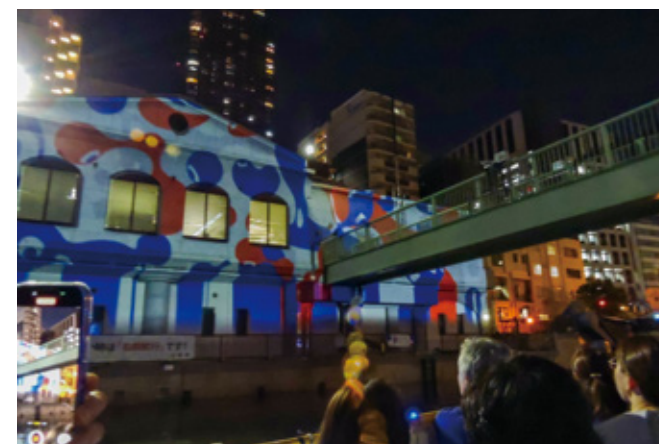
道頓堀川の橋を巡る



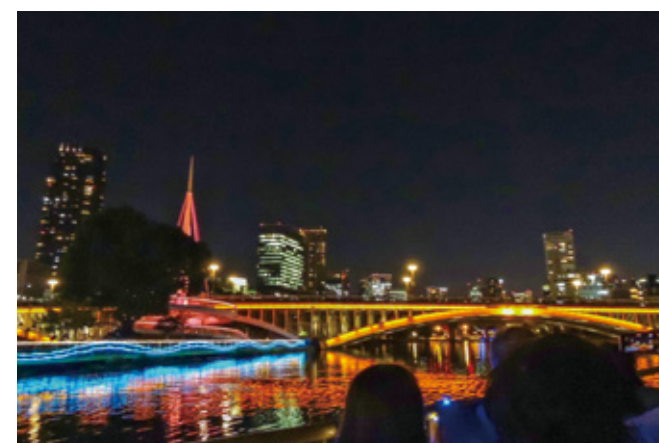
東横堀川水門をくぐる



東横堀川エリアの「水辺のプロジェクションマッピング」を見学



八軒家浜エリアの「OSAKA リバーファンタジー 水辺のプロジェクションマッピング」を船上から見学



Mer vol.39の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

▶清流紀行 ……………
・法隆寺iセンター
・斑鳩の里 観光ボランティアの会
・斑鳩町商工会
・吉田寺
▶ガイアの瞳 ……………
・大阪市環境局 環境施策部 環境施策課
・大阪公立大学

▶水人之交 ……………
・滋賀県 農政水産部 農村振興課
・せせらぎの郷 須原